



個々の患者様の必要性に合わせたリハビリを行います。

施設基準1（最高レベル）に格付けされている本院の回復期リハビリ病棟には脳卒中や大腿骨頸部骨折のために低下した手足の動き・歩行・嚥下・会話などの機能回復をめざす患者様が入院してこられます。どのような機能の回復が最も重要であるかは患者様によってそれぞれ異なっています。

当院には優秀で親切な理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が大勢勤務しており、リハビリ科所属のリハビリ専門医、脳卒中専門医、脳外科専門医、神経内科専門医、整形外科専門医らと協力しながら個々の患者様の必要性に合わせたリハビリを行います。週一回の回診において複数医師、薬剤師、看護師、セラピストがグループで治療状況を検討するのも特徴の一つです。

名誉院長 **成富 博章**



医療安全への取り組み。

千里中央病院では約400名の職員が協働し、それぞれの役割を果たすことで、患者様の入院生活をサポートしています。患者様は入院されるまでの生活も当然一人一人異なりますし、ご病気もそれぞれに異なります。日常生活に必要なサポートもお一人ずつ異なります。食事や入浴に介助が必要な方もおられます。飲まれているお薬なども異なります。薬によっては夜間にせん妄などを起こしやすいものもあれば、ふらつきや転倒の原因になるものもあります。薬や食べ物にアレルギーをお持ちの方もおられます。

従って、入院生活を安全に維持するためには、医師や看護師は言うまでもなく、薬剤師、リハビリ専門職、栄養管理士、介護士、医療相談員、検査技師、事務職員などが、一人一人の患者様の状態に応じて、細かなサポートを行うことが必要です。そのため職員には互いの連携やコミュニケーションを円滑に行うとともに、患者様の状態の変化に対する即応力が求められます。これらのことが日々円滑に行われるように、病院の中で医療安全活動を行っています。

副院長 **黒住 和史**



千里中央病院 緩和ケア病棟

コロナ禍における感染対策と緩和ケアを両立するために

現在、新型コロナウイルス感染予防対策により、面会制限を余儀なくされており、緩和ケア病棟も例外ではありません。こうした状況下において最も必要なことは、患者様とご家族、そしてスタッフがお互いに直面している苦難と課題を理解するために話し合いを行い、共に歩んでいくために信頼関係を築くことです。



私たちは、緩和ケアに携わるスタッフとして、これまでに培ってきた苦難と課題を共有する力を活かし、解決し難い問題について、皆さまとコミュニケーションをとりたいと思っています。患者様とご家族が対面できる時間が笑顔でありますように、皆さまの力になれるようスタッフ一丸となって支援させていただきます。



(3月のひな祭り)
季節に応じた飾りつけです



明るい空間でご家族と
面会していただいています



■ 病院概要

診療科 / 内科、神経内科、外科、整形外科、
脳神経外科、リハビリテーション科
病床数 / 400床

- 一般障害者病棟：275床
- 回復期リハビリテーション病棟：100床
- 緩和ケア病棟：25床



看護部の取り組み



オムツフィッターの育成

千里中央病院は、慢性期病院で臥床患者さんが多く、オムツを使用している患者さんが9割を超える病棟もあります。

そこで、オムツ交換の質向上を目的に看護補助者に対して、2011年8月からオムツフィッター研修を開催しています。研修内容は外部講師からの講義や体験型学習方法を実施し、最後にテストを受け認定されるものです。

現在までにオムツフィッター認定者は90名以上います。(2020年度現在) 認定された看護補助者は各病棟でオムツ交換の指導や相談に関わり、活躍されています。現場で他のスタッフへ指導し活躍されることで、看護補助者のモチベーションにもなり、質の高い患者ケアにも繋がっています。



薬剤科紹介

薬剤科は、薬剤師11名とアシスタント2名が在籍しており、患者さまに安全で最適な薬物療法を提供できるよう多職種と一緒に取り組んでいます。薬剤師の役割は、医薬品の管理、調剤、服薬指導だけではなく、医薬品情報の管理や医師への処方支援など多岐にわたります。主な業務についてご紹介します。

調剤・無菌製剤

薬剤師は、医師の処方内容を確認したうえで調剤を行います。安全に調剤を行うために、当院では電子カルテと連動した自動錠剤分包機、散剤監査システム・散剤自動分包機などの機器を導入しています。注射薬は感染予防のため、中心静脈栄養輸液を薬剤科内のクリーンベンチにて無菌的に調製しています。

医薬品情報の管理

専任の医薬品情報担当薬剤師を配置し、医薬品の最新の情報や副作用情報を収集し管理しています。他の医療従事者がお薬を適正に使用できるよう指導するのも薬剤師の役割です。



病棟薬剤業務

病棟毎に担当薬剤師を配置し、患者さまのベッドサイドへ出向いてお薬の効き方や症状の変化を伺います。そして薬物治療の評価と問題点に基づき、医師へ処方支援を行っています。



認定薬剤師が活躍しています！

研修や実技を通じて定められた単位を取得し、高度な知識と技能を持っていると認められた認定薬剤師が、患者さまへの治療がより効果的で安全に行えるよう活躍しています。

認定薬剤師

緩和薬物療法認定薬剤師

日本糖尿病療養指導士

外来がん治療認定薬剤師

老年薬学認定薬剤師

日病薬病院薬学認定薬剤師



地域医療連携室

誰に聞いたらいいか…
そんな時こそご相談下さい！

地域医療連携室では医療ソーシャルワーカー (MSW) 10名、退院支援看護師1名、認知症看護認定看護師1名、事務員1名が勤務しております。

そのなかでも、医療ソーシャルワーカー (MSW: Medical Social Worker) は、受診・受療援助、療養中の心理的・社会的問題の解決、退院後の生活環境調整、と入院前から退院まで幅広く相談支援を行っております。当院では社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を有する者が業務を行っております。

- 入院したいけど、どんな手続きをしたらいいの？
- 入院費用の支払いが心配
- 介護保険って何？どんなときに申請できるの？
- 身体障害者手帳を取得するにはどうしたらいいの？
- 退院後の生活が不安
- 誰に相談したらいいかわからない

地域医療連携室で対応が難しい場合は、対応可能なところへつなぐお手伝いもさせていただきます。どのようなことでも一度、お声がけください！



編集後記



大阪府においても緊急事態宣言が解除されましたが、皆様は如何お過ごしでしょうか？ワクチン接種も少しずつ始まる兆しを見せる中、変異株のニュースが取り上げられ、まだまだ不安の拭えない状態です。

そんな中、入院されている患者様に対する医療提供の質を落とさないように、感染対策を徹底し、各部署が研鑽を積んでいます。

皆様が、健康に過ごせる日々を願っております。

作業療法士 大山 勝範